豊岡市地域コミュニティビジョン（素案）に関する意見募集（パブリックコメント）の結果と回答について

1 意見募集の実施状況

- (1) 意見の募集期間 : 2019（令和元）年8月26日（月）～10月9日（水）
- (2) 公表資料の閲覧方法
- ① 豊岡市ホームページでの閲覧
 - ② 文書閲覧
 - (ア) コミュニティ政策課
 - (イ) 各振興局地域振興課
 - (ウ) 各コミュニティセンター
 - ③ 地域コミュニティビジョン地域説明会での終了時アンケート(記述欄)
- (3) 意見の応募件数 : 27件

2 意見の概要と意見に対する考え方・回答

No.	主な意見の概要	市の考え方（案）
1	市レベルでの問題と、コミュニティレベルでの問題は明確に分けて考えるべきでは？（例えば防災に関しては、あくまで市が主導する等）。役割・担当・責任の範囲があいまいで優先順位、取捨選択が決めづらい。（何の制限もなく、コミュニティだけで決めてもいいの？）	本ビジョンは、地区レベル（コミュニティレベル）の内容について記載しており、具体的な取組みに関して協働で取り組む場合には役割・担当・責任の範囲等について、相互に調整し実施していきたいと考えています。
2	何もしないより何かする。10年後を見通して第一歩、組織づくりが大切ということに共感しました。	次の第一歩を踏み出すことで、地域も変わっていくと考えます。市も組織と連携・協働して地域づくりに取り組んでいきます。
3	行政の立場から課題と考えられる分野、コミュニティに取り組んでほしい将来像をビジョンとして共有することは必要。その中で、各地区が自分たちの地区の色を描いていける（引き出す）工夫が必要。そこに光を当てながら多くの人を巻き込まないといけないし、多くの人が携わらないと地域づくりにならないと思います。	ご意見のとおり、地区のビジョンを実現していくためには、多様な住民の参画が必要と考えます。市としては今後も、多様な住民が主体的に関われるよう働きかけていきます。

4	女性、子どもの意見が反映されにくい。子ども会、子どもの育成に関することがコミュニティでもっと考えていただけたらよいと思います。	女性や子どもなど多様な意見を反映し、地域課題の解決に向け、取り組む仕組みが地域コミュニティです。市としても、こうした地域コミュニティの役割が理解いただけるよう働きかけていきます。
5	それぞれの行政区の現状の中で、コミュニティ組織の必要性や重要性が認識されにくいと考える。同じコミュニティの行政区の中でも人口規模、地理的な状況、年齢構成も異なり、共通の考え方が導き出せないことが多いのではないかと。目的の意義を伝えていくこと、人材の育成（リーダーとなる）が重要と考えます。	地域コミュニティがスタートして3年目ということもあり、行政区において地域コミュニティ組織の必要性や重要性が十分に浸透していないと認識しています。地域コミュニティは多様な主体が参画し、地域課題の解決に取り組んでいく仕組みです。 市としては、今後もそれぞれの行政区で地域コミュニティ組織の必要性や役割が理解いただけるよう働きかけていきます。
6	現実の諸問題（課題）をしっかりと直視して、具体的な取り組み例が表されています。人口減少（少子化）のため、できなくなった祭事などを行政区を超えて実施するなど、現実的な取り組みとなっていますが、「～ができなくなる」というマイナスのイメージが全面に出ているような気がします。子どもを増やす施策、アイデアなどはコミュニティには不向きなのではないでしょうか？（すぐわない課題？）	子どもを増やす施策については、市の地方創生総合戦略の中で市全体としての取組を進めているところですが、地域コミュニティにおいて検討することも重要と考えます。本ビジョンにおいても、第3章-2-(1)-②「地区で子どもを育てる体制ができている」にも記載しています。
7	コミュニティビジョン中の将来像について、内容が従来の区活動と重複する部分が多く見受けられる（ように見える）。区役員とコミュニティ人員が重複する原因にもなるかと感じた。地区ごとに整理をして、区とコミュニティを同一視させない工夫も必要と感じた。	本ビジョンでは、将来を見据えた時に行政区の活動が困難な場合があるため、現状では区と重複する活動も地域コミュニティの活動例として取り上げています。各地区の実情に応じて、行政区の役割と地域コミュニティの役割を整理しながら、特定の人に役割が偏らないような配慮も必要ではないかと考えます。
8	将来像は10年後の理想と捉え考えられるか。事業と事業計画については、5年ごとくらいに見直したいと思いますが・・・。	事業計画（地域づくり計画）は、地域の状況の変化に応じて適宜見直していただくことが適切と考えています。
9	将来像ややるべきことはよく理解できるが、現状では各区単位の団体やグループの活動の域を出た活動が大変難しい面があり、全体（地区）で同じ方向をめざしたものが見つからない。人口減が進	地区の目指す将来像を共有していくことや、組織の役員等の人材確保は重要な課題であり、例えば、地区での話し合いの中で地域づくり計画の策定を通じ、地区の目指す方向性を共有していくことも一つの方

	むなかで役員のなり手不足が深刻である。	法と考えます。
10	めざすべき将来像の基本方針にもある「定住人口を保つ」に関しては、コミュニティだけでは無理です。ビジョンの中にもある市との協働が必ず必要だと思います。わかりやすいビジョンだと思いますが実際は難しいと考えていました。作野先生のすべてを実現しなくてもよいという言葉に、少し肩の荷が下りた気分です。	本ビジョンは全市的な視点で多くの内容を盛り込んでいますが、出来ることから取り組んでいたただければ良いと考えています。めざす地域コミュニティの将来像に向けて、市と住民やその他の関係団体等との協働は不可欠と考えています。
11	コミュニティ組織ごとの現状と課題に差異が大きすぎて、市でまとめたビジョンはピンと来ない。目標とする将来像がイメージできない。区長会との違いはいまだにわからない。	本ビジョンは全市的な視点で多くの内容を盛り込んでいます。各地区の実情に応じて、区長会の役割と地域コミュニティの役割を整理しながら、第3章-2「具体的なコミュニティ像」を参考にして、目標とする将来像を検討いただきたいと思います。
12	ビジョンは素晴らしいが、方向性を示して行政は終わりではなく、それぞれのコミュニティのビジョン策定に地域ごとの素案を示すべきではないのか？	本ビジョンは全市的な視点で方向性を示しています。各地区においては、ビジョンの中から実情に合った部分を地域での話し合いで活用し、地域づくり計画策定の参考にしていただきたいと思います。また、策定にあたって、市ではさまざまな形での支援を行っていきます。
13	(地域コミュニティごとに) 地域格差が大きい。もっと規模に応じたビジョンを。	
14	ビジョン策定の意義は理解するが、地域の実情を見た時、策定はしたいが厳しい気がする。	地域づくり計画の策定にあたっては、市ではさまざまな形での支援を行っていきますのでご相談ください。
15	方向性はよくわかるが、各地区の特性もあり、なかなか理想通りには進まない。人・物・資金等も乏しく、先細りが気になる。	本ビジョンは全市的な視点で多くの内容を盛り込んでいますが、出来ることから取り組んでいたただければ良いと考えています。市では引き続き必要な支援を行っていきます。
16	基本的には理解できるが、地域コミュニティで(検討を)行うまでに各行政区で共有される状況ができる必要があるのでは。	現在ご要望に応じて、地域コミュニティ組織を窓口にして、全住民を対象とした出前講座(意見交換)を実施していますので、引き続きご活用ください。
17	既にコミュニティを創設して5年目に入るが、地区別に問題点とビジョンを行政担当と意見交換を行いたい。	

18	内容的にはめざすところは同じだと思うが、いかに自分の地域にアレンジしていくかが大事だと思う。ただ行政側もどの様にアレンジされているか把握されるべきだと思うし、空家など豊岡市全体的な話、福祉見守り活動などコミュニティでの話など専門的な職員の配置も大事かと思う。	個々の地区ごとに専門的な職員を配置することは困難ですが、専門的な職員につないだり、地区の運営状況の把握、その対処を行政と共に行う中間支援組織の設置を検討しています。
19	支援のあり方が多岐にあることは良いとは思いますが、市として責任をもって当該地域のコミュニティを支援していくのは何処（誰）なのでしょう。図表 4-3 のアドバイザー会議や中間支援組織などは、市として支援していくための一つのツールであるという捉え方にならないでしょうか。コミュニティがうまくいかない原因の一つが、このことにあるかと感じます。 また、全市職員が地域コミュニティを推進してゆくことがこれからの豊岡には必要不可欠であることの認識が感じられません。（何ごとも縦割りのように感じられます。）	豊岡地域はコミュニティ政策課が、他の地域は各振興局が身近な窓口として支援を行っています。また、全市職員に地域コミュニティの必要性の認識や職員と地域との関係づくりに向けて協働研修の実施や、縦割りの弊害を減らすための市役所各課の横断的な体制構築も検討しています。 また、さまざまな支援のあり方も必要なことから、地域づくりの専門性やきめ細やかな地区の運営状況の把握・その対処を行うために、(仮称) 地域づくりアドバイザー会議や中間支援組織などの設置も検討しています。
20	求められる地域コミュニティ像（めざす将来像）は、あくまで市として望ましいと考えている理念や方針であるということをもっと分かるような表現の記載があれば。（地域づくり計画は、必ずしも市の意向にそうように策定する必要はないと理解しています。）	ご意見の内容(本ビジョンは市が考える地域コミュニティの将来像を示している)はそのとおりであり、第1章「地域コミュニティビジョン策定の趣旨と位置づけ」にも記載しています。
21	10年間のビジョンであるなら、10年間の財政支援を明確かつ具体的に示していただけるとありがたい。地域づくり計画を策定しても実現不可能に陥る可能性があります。何よりこれからのコミュニティ運営の見通しがたたないのではないのでしょうか。	市としては、第4章-2-(2)-④「地域コミュニティ組織の財源確保」に記載のとおり、地域コミュニティの基礎的活動部分の財政支援は今後も継続していく方針です。
22	第2段階の組織づくりが終わり、活動始めてほっとしているところ、コミュニティビジョン説明のため、スピードが速すぎて当惑しています。我々の組織はボランティア組織なので、扱いが難しいことがあります。	これまで、「豊岡市新しい地域コミュニティのあり方方針」に基づき組織づくりを中心に推進してきました。本ビジョンでは、持続可能な地域づくりに向けて市が考えるめざすべき将来像を示しています。市としては、各地区の実情に応じて出来ることから進めていたただければ良いと考えており、推進にあたっては協働で進めていきます。

23	P. 31⑤「計画性のある取組み」について、計画のための計画づくりで止まっている。計画実施の結果を求められるのが性急すぎる。	市としては、地域づくり計画の策定と実行を推進しており、第4章でそのことに触れています。ただし、各地区の実情に応じて出来ることから進めていたただければ良いと考えており、推進にあたっては協働で進めていきます。
24	P. 37～ 基本方針をこのように市として示すことは、大変良いと考えます。	本ビジョンに掲げた理念を実現するために、基本方針を定めています。市は、この理念や基本方針に基づき、地域と共に地域づくりを推進していきます。
25	P. 51 (1)-②、「地域コミュニティ組織と行政区との関係」の「行政がやること」において、コミュニティが事務処理や事業展開する上での行政手続き等、市のバックアップ体制を整えること。“タテ割り行政”の弊害をなくし、全職員がコミュニティ能力をアップするという記述がある方がよいと思います。 (P. 52 (2)-①も同様)	<p>該当箇所に「地域コミュニティ組織の事業展開に対し、各課横断的な支援実施」「全職員がコミュニティ能力をアップする」という記述を追加します。</p> <p>巻末：用語説明一覧</p> <p>「コミュニティ能力」</p> <p>地域とかかわる力として使用している。具体的には、対等な立場での地域住民とのコミュニケーション能力、地域のコーディネート能力等という意味で使用している。</p>
26	地区の防災・福祉の活動にコミュニティ組織が行政と行政区の中間位置に入り込むと、直に対応が求められる時に行政と区の緻密な連携が損なわれる恐れが出てくるのではないかと。	市では、地域コミュニティ組織は、常に市と行政区の中間位置にあるものではないと考えています。例えば、災害時における要援護者への対応等は行政区が、平時における防災意識の啓発等は地域コミュニティ組織が担うというようなことが考えられます。このように、現時点では、より身近な住民への対応が必要な場合はこれまでどおり行政区と市で直接連携を図ることとなります。
27	「自助、共助、公助」が云われる中、「共助」をコミュニティ組織に委ねることに見え、行政の責任放棄とも見えてくる。	市では、地域コミュニティ組織は行政との協働のパートナーと位置付けています。このことから、一方だけに責任を押し付けるものではないと考えています。